

こくはノ名ハしらくちト共ニ舊シ

シリベシ山ニ後方羊蹄山ノ字ヲ充テタ譯

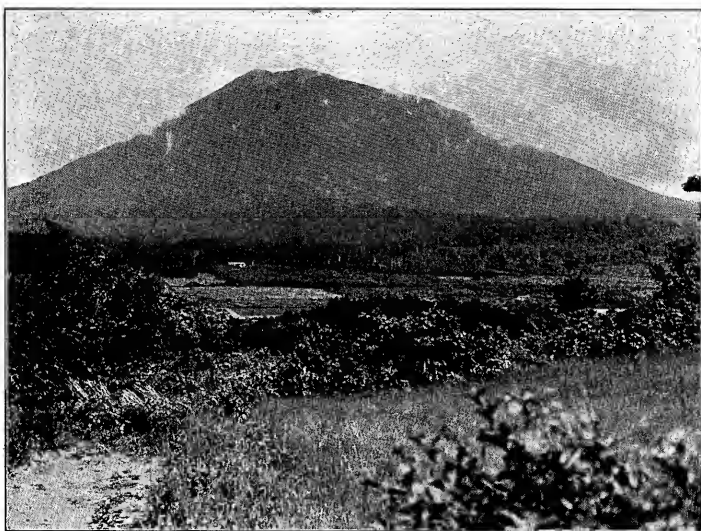
以外ノ人ガ讀ムノニハ不便極ツタモノデアルソレユエ折角ノ分類學者ノ仕事ノ結果ガ往々利用セラレ難イ弊ガアル私ハ此理由ニヨツテ斯ク希望スル次第デアル

〇こくはノ名ハしらくちト共ニ舊シ

牧野 富太郎

こくはハしらくち一名あるなし即チ *Actinidia arguta* Planch. ノ一名デアル此こくはハ最モ舊ルキ和名デアツテ源順ノ倭名類聚鈔ニヨレバ獼猴桃ニ和名之良久知「シラクチ」一ニ古久波「コクハ」ト出テ居ル之レニヨレバしらくちノ名モこくはト共ニ昔カラノ名ト見エル、ソシテさるなしノ名ハ或ハ後世其獼猴桃ニ準ジテ製シタモノカ或ハ山デさるガ食フト云フ意カラ名ケタモノカト思フ此しらくちハ其蔓ガ太クナレバ直徑三四寸ニモ及ブモノガアル野州ノ日光デハ之レヲ輪切リトナシ土瓶敷ニ製シテ賣ツテ居ル又其小ナルモノハ皮ヲ剥イデ杖ニ製シ是モ同様售ツテ居ル、土佐ノ香美郡ノ山奥ニ韭生（ニロー）郷ト云フ處ガアツテ其深キ谷ニ葛橋ガ掛ツテ居ツタガ其レヲ繋イデアッタノガ此しらくちノ蔓デアッタ、我邦ノ本草家ハ從來此しらくちニ獼猴桃ノ漢名ヲ充テ來ツタガ然シ是レハ元來同屬中ノ *Actinidia chinensis* Planch. ノ漢名デアツテ其植物ハ植物名實圖考ノ三十一卷ニ出テ居リ我しらくちニ似タ別ノ品種デアル、しらくち即チこくハノ果實ハ本草綱目啓蒙ニ『後實ヲムスブ形大棗ノゴトク長サ寸許ヒロサ六七分莖長シテ下垂ス冬ニイタリテ熟ス綠色ニシテ褐色ノ斑點アリテ梨實ノゴトク又胡頹子ノゴトシ熟スレバ柔軟ニシテ甜香アリ肉ハ綠色ニシテ味甘シ小兒トリ食フ内ニ細子アリ罌粟子ノゴトシ』ト書イテアル、猫ノ好クまたゝびハ此こくハト同屬ノ異種デアル

〇シリベシ山ニ後方羊蹄山ノ字ヲ充テタ譯



後方羊蹄山ノ眺望 (武田久吉君撮影寄贈)

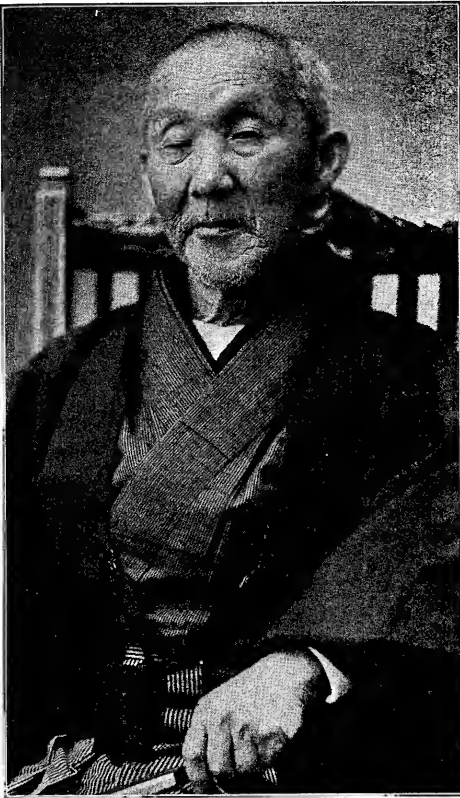
牧野 富太郎

山崎美成ノ『海録』卷ノ十三ニ『一宵話』ニ載スル左ノ記事ガ拔キ書キシテアル即チ「東蝦夷地のシリベシ嶽は高山にして其絶頂ニ徑リ四五十町の湖水ありその湖の汀は皆泥なりその泥に羊の足跡ひしとありといふ奥地のシリベシ山を日本紀^{五年}齊明に後方羊蹄とかゝれたると此蝦夷の山と同名にして其文の如く羊の住めるはいと怪しと蝦夷へ往來する人語りし誠に羊蹄二字を日本紀にも萬葉集にもシの假字に用ひしは故ある事ならん」デアル是レデ觀レバ『一宵話』ノ著者ハシノ場合ニ羊蹄ノ二字ヲ使用シタ譯ガ能ク分ツテ居ラヌ様ニ思ハレルガ是レハざしざしト云フ草即チ羊蹄(漢名)ノ古名ヲし即チ之(倭名類聚鈔)ト云フモンダカラソレデ羊蹄ノ二字ヲシノ場合ニ用キタモノデ其用字ガ頗ル奇拔デアル故ニチヨット普通ノ人ニハ分リニクイコトニナツテ居ルシリベシノシリベヲシリヘ(即チ、ウシロ)ト見テソレヲ後方ト書キンレニ續ケテ前記ノシノ羊蹄ノ字ヲ添ヘシリベシ山ノ名トシタモノデアル此意味ヲ斯克釋解シテ世ニ公ニシタ人ノアッタコトヲ私ハマダ知ラヌユエ特ニ此ニ之レヲ書イテ見タ、此山ハ北海道後志カラ膽振ノ國ニ跨ツテ聳

藤野寄命翁ノ自叙傳

ユルマッカリスプリ山ノ事デ一ニ蝦夷富士ト呼ビ昔カラ著名ナ高山デア
 ル、ぎしぎしハ原頭ニ多キタで科ノ雜
 艸デ Rumex japonicus Meisn. ノ學名ヲ有スル、此草ニ前述ノ様ニシト云フ古名ガアル其根ヲしのねノ意
 稱シ藥用ニシタモノデ今モ尙同屬ノまだいわう (R. Daiwoo MAKINO) ノ根ト同様ニ民間デ往々之ヲ薑擦子
 擦リオロシ酢デ練ッテいんさんたむしノ患部ニ傳ケルコトガアル又其實ヲ乾カシ蕎麥殻ノ代リニ之ヲ茶枕ニ入
 ル、コトヲ北海道利尻島デ見受ケタコトガアッテ自分モ試シテ見タガアマリ上等ナモノデハナイ

○藤野寄命翁ノ自叙傳



藤野寄命君 Mr. KIMBEI FUDZINO.

(大正十一年十一月二十三日撮影)

牧野富太郎

明治二十二年五月十六日博物館ニ改革ガアッテ
 館長ニモ更迭ガアリ(新館長ハ九鬼隆一氏天
 部ニ最モ縁ノ深イ田中芳男先生モ此時同館ヲ辭
 タ、頃日其際藤野君モ亦同館ヲ去ッテ野ニ下
 意、同君ガ若カリシ時如何ニ熱心ニ學問ヲ爲
 肖像ト共ニ之ヲ左ニ掲ゲテ後世ニ傳フルノ用
 (牧野)

藤野寄命

予は岩州の演傳習學校
 (後初等師範學校又中學校
 と改稱)一歴史、博物科
 教員任務中明治二十
 日者中休暇を利用して上